

同業2社と共同配送

機械部品商社の足田産業



搬送に使う足田産業のトラック
(石川県白山市)

機械部品が主力の商社、足田産業（石川県白山市）は同業2社と得意先が共通する石川県内の機械メーカーを対象に年内にも共同配送を試行する。残業規制で運転手不足が懸念される物流の「2024年問題」に対応すると同時に、メーカーの荷受業務の効率化にもつなげる。軌道に乗った段階で共同配送に参加する事業者の拡大を目指す。

年内にも試行 AIで最適経路選択も

顧客ごとに機械部品を組み合わせる（石川県白山市の足田産業）



見込める顧客に共同配送が可能かどうかを協議し、理解を得られたところから実施に移す。現在、各社は自社のトラックやワゴン車を使って配送したり運送会社を外注したりしている。共同配送便の方法について、物流コンサル事業者と協議を進めている。共同配送の効率を高め

顧客ごとに機械部品を組み合わせる（石川県白山市の足田産業）

るため、専用のシステムを構築する。3社が顧客ごとに受注した日別に荷物を人力すれば、人工知能（AI）を活用して最適な配送ルートが分かる仕組みを目指している。

共同配送によってトラックなどの積載率が高まれば運転手不足の対策につながるほか、二酸化炭素（CO₂）の削減も可能になる。顧客である機械メーカーにとっては納品の回数が減って荷受業務が効率化できる利点がある。

足田産業の足田弘一社長は「人材確保が厳しい時代になり、物流効率化は急務。同業者はライバルでもあるが、共同配送の効果のほうが高いと考えた」と話す。

共同配送によってトラックなどの積載率が高まれば運転手不足の対策につながるほか、二酸化炭素（CO₂）の削減も可能になる。顧客である機械メーカーにとっては納品の回数が減って荷受業務が効率化できる利点がある。

